

第10回 防災・危機管理人材育成シンポジウム
災害・危機対応マネージャーの活動報告

「福祉の力で防災・減災を目指して」

令和4年3月16日

田中 元

社会福祉法人喜勝会

社会福祉士、防災士

災害・危機対応マネージャー

本日の内容

1. 自己紹介
2. 災害・危機対応マネージャーの活動紹介
 - 1) 福祉系大学講師における災害教育
 - 2) 災害福祉支援コーディネーター
 - 3) 香川県災害派遣福祉チーム（香川DWA T）
 - 4) 机上避難所運営訓練（HUG）のコロナ応用編の取組み

1. 自己紹介

氏名：田中 元 (たなかはじめ) 年齢：65歳

四国防災・危機管理プログラム：第7期修了生

資格：社会福祉士、防災士、災害・危機対応マネージャー など

職歴：高齢者福祉施設のソーシャルワーカー、管理者 30年間

福祉専門学校社会福祉学科の教員 5年間

現在：社会福祉法人 喜勝会 理事

香川短期大学 非常勤講師 (高齢者福祉論、社会福祉概論等)

四国学院大学 非常勤講師 (高齢者福祉論)

専門領域：高齢者福祉

(ケアマネジメント、認知症介護、災害ソーシャルワーク)

これまでの被災地での支援活動



西日本豪雨 三原市
2018.8.05



西日本豪雨 野村町
2018.8.11



西日本豪雨 坂町
2018.10.20



西日本豪雨 坂町
2018.12.23



四国防災・危機管理プログラム受講
2019.4.1～2021.3.31



西日本豪雨 坂町
2019.6.16



九州豪雨 武雄市
2019.9.10



台風15号19号 富津市
2019.11.6

目標

災害による高齢者・障がい者(児)の死亡をゼロにする

現在の災害支援に関わる活動概要

目的・狙い	立場・役割	主な取り組み内容	求められる知識・能力
人材育成	・ 社会福祉系大学の講師 (社会福祉士・介護福祉士の養成)	・ 災害時の被災者支援の理論・技術の教授 ・ 福祉の専門知識との融合	・ 災害支援、防災・減災 ・ プレゼンテーション ・ コミュニケーション
関係機関とのネットワーク構築・強化 福祉施設の災害対応力の向上 要配慮者への支援	・ 災害福祉支援コーディネーター ・ 香川県災害派遣福祉チーム先遣隊(香川DWA T)	・ 保健・医療・福祉機関等との連絡調整・連携・協働 ・ 教育・研修企画・運営 ・ 被災地のアセスメント ・ 災害時における被災者支援 ・ 保健・医療・福祉機関等との連携・協働 ・ 防災・減災の教育啓発活動 ・ 多機関の受援体制整備	・ 関係機関の組織、活動の特徴等の理解 ・ 企画、マネジメント ・ 災害アセスメント ・ 制度、保健・衛生・感染、栄養、環境 ・ 救急法、PFA ・ 通信、IT、宗教、多国籍言語
地域防災力の向上 ボランティア支援	・ 香川県防災士会 ・ ライオンズクラブ四国地区アラートチームリーダー ・ 日本ライオンズアラート委員会副班長	・ 住民の防災・減災意識の高揚及び知識・技術の提供、 ・ アマチュア無線(災害時対応) ・ 関係機関との連携・協働 ・ 災害ボランティアセンター及びボランティアの支援 ・ ボランティアの育成	・ 防災・減災 ・ 地域組織力の強化 ・ 防災マネジメント ・ 組織の構築、規定策定 ・ 支援及び受援体制強化 ・ 情報収集、分析

2. 福祉系大学講師における災害教育



- ・生活文化学科
生活文化専攻
食物栄養専攻
生活介護福祉専攻
- ・こども学科第I部
- ・こども学科第III部
(修業年限は3年)
- ・経営情報科



生活介護福祉専攻 介護福祉士養成

- ・高齢者福祉論
- ・社会福祉概論
- ・介護の基本 II

「被災者の生活支援」
災害時における福祉専門職に必要な理論
講義・演習





香川短期大学
避難訓練より



学校法人四国学院

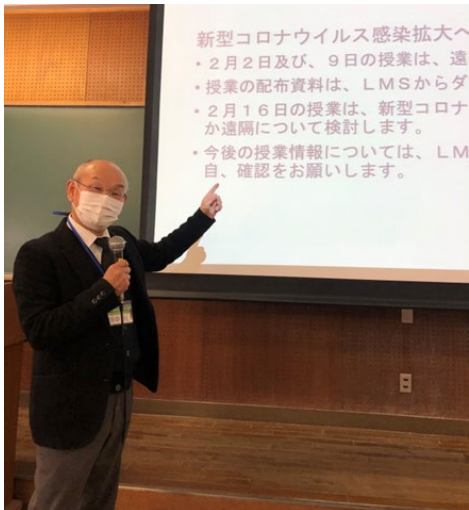
四国学院大学非常勤

キリスト教主義に基づく人格教育と学術研究を行い、
神と人ともに奉仕する人間の育成を目指す。

基本理念 (一部抜粋)

- ・ 異なった文化、異なった者を受容する感性を涵養する。
- ・ 感傷や同情に留まることなく、福祉を求めて社会的現実を真摯に理解し、課題に取り組む人間を尊ぶ。

社会福祉学部 社会福祉学科 「高齢者福祉論」担当 社会福祉士養成



厚生労働省より、社会福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて(令和元年6月28日付)を受け

授業計画に追加

福祉理論と災害理論の融合

四国学院大学／厚労省HPより

大学設置：1962年

創立：1949年

本部所在地：香川県善通寺市文京町

学部：文学部

社会学部

社会福祉学部

研究科：文学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

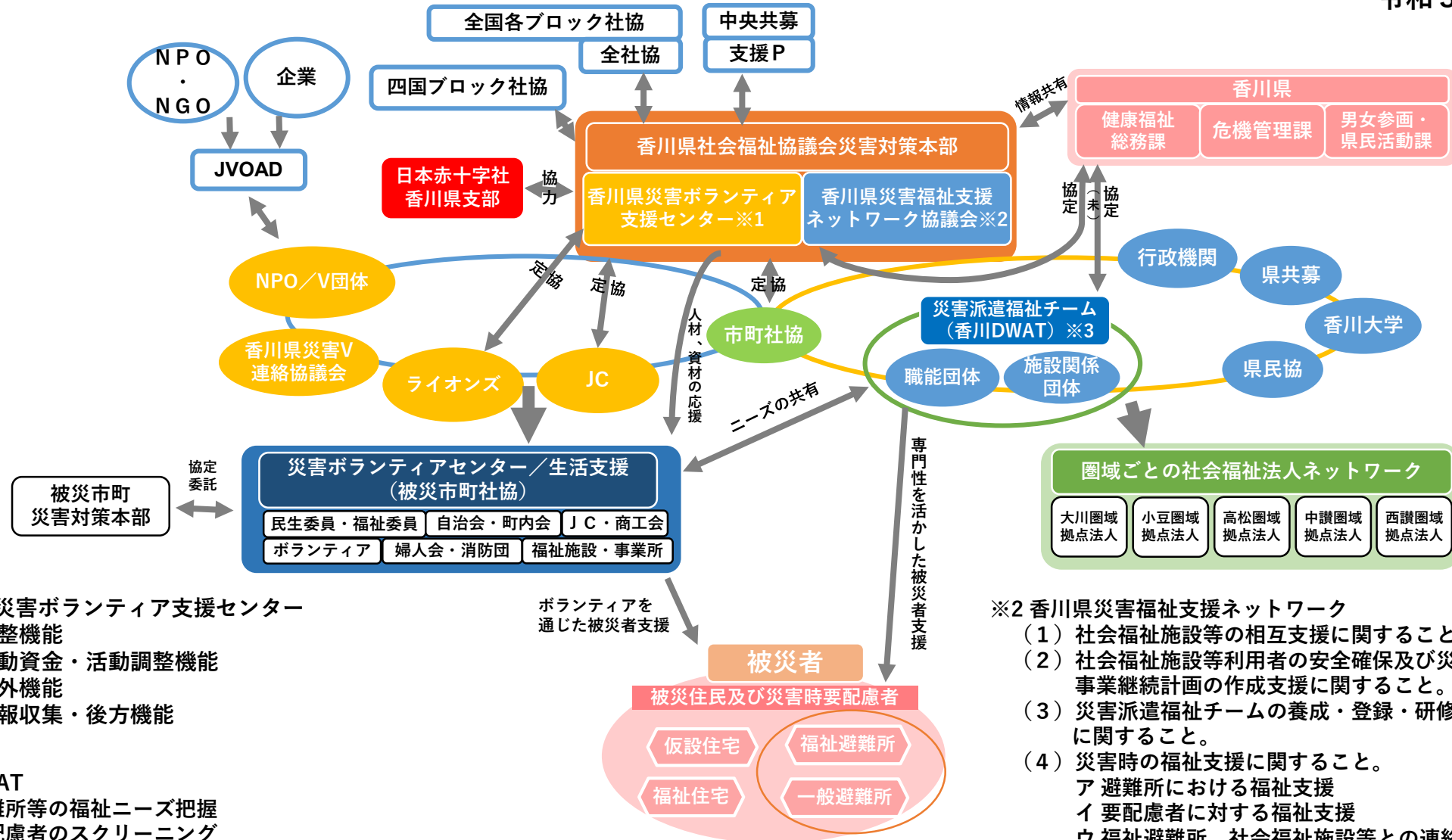


災害対策基本法、災害救助法、自治体等の避難計画、BCP、災害時要援護者支援、災害時の生活課題・支援の目的・方法、福祉避難所運営、災害ボランティア、演習：災害時

3. 災害福祉支援コーディネーターの活動

香川県社会福祉協議会 被災者支援のネットワークイメージ図

令和3年4月1日現在



香川県社会福祉協議会より

※1 香川県災害ボランティア支援センター

- (1) 調整機能
- (2) 活動資金・活動調整機能
- (3) 渉外機能
- (4) 情報収集・後方機能

※3 香川DWAT

- (1) 避難所等の福祉ニーズ把握
- (2) 要配慮者のスクリーニング
- (3) 要配慮者からの相談対応
- (4) 介護を要するものへの応急的な支援
- (5) 避難環境の整備

※2 香川県災害福祉支援ネットワーク

- (1) 社会福祉施設等の相互支援に関すること。
- (2) 社会福祉施設等利用者の安全確保及び災害時事業継続計画の作成支援に関すること。
- (3) 災害派遣福祉チームの養成・登録・研修・訓練に関すること。
- (4) 災害時の福祉支援に関すること。
ア 避難所における福祉支援
イ 要配慮者に対する福祉支援
ウ 福祉避難所、社会福祉施設等との連絡調整
- (5) その他会長が必要と認めた事項

災害福祉支援コーディネーター

- 目的

香川県において、行政、福祉関係団体、保健医療関係団体等による官民協働の災害福祉支援ネットワークの構築・強化を図るとともに、災害への対応力向上を図る。

- 活動内容

- 1) 平時における取組

- ・ 保健医療活動チームとの合同研修・訓練の実施
- ・ 社会福祉施設等における事業継続計画(B C P)の策定支援等

- 2) 災害時における取組

- ・ 避難所等における福祉ニーズ等の情報収集
- ・ 災害派遣福祉チームの迅速な派遣調整等のコーディネート
- ・ 災害医療コーディネーター等の保健医療関係者との連携

令和３年度の取り組み

１．社会福祉施設等における事業継続計画（ＢＣＰ）策定研修会

開催日：令和３年１０月６日（水）・令和４年２月２５日（金）

開催方法：オンライン研修　ＺＯＯＭ参加５２団体、６２名参加

内容：社会福祉施設等の事業継続計画の策定　【基礎編・実践編】

講師：磯打 千雅子 先生

２．災害対応力向上研修会

開催日：令和４年度１月１８日（火）

開催方法：オンライン研修　ＺＯＯＭ参加４８団体、５７名参加

内容：ハザードマップによる被災状況の確認から備える

講師：野本 粹浩 先生

4. 香川県災害派遣福祉チームの活動 (香川DWA T)

DWA T : Disaster Welfare Assistance Team

より良く生きる

香川県災害派遣福祉チーム〔香川DWAT〕^{でいーわっと}

香川DWATは、災害時に避難所に駆けつけ、誰もが安心して過ごせるよう福祉的な目線で配慮を要する方に寄り添った支援を行います。

香川DWATのメンバーは、社会福祉士、介護福祉士、保育士など福祉専門職がいるので、高齢者、障がい者、子ども・親への支援など、福祉や介護のニーズ把握や応急支援を行うことができます。

活動内容 ～災害時だけでなく平常時から活動しています～

平常時

- 香川DWATの養成研修・訓練へ参加
- 地域の防災訓練や行事への参加
- 災害時備える平常事の地域づくりへの協力 など



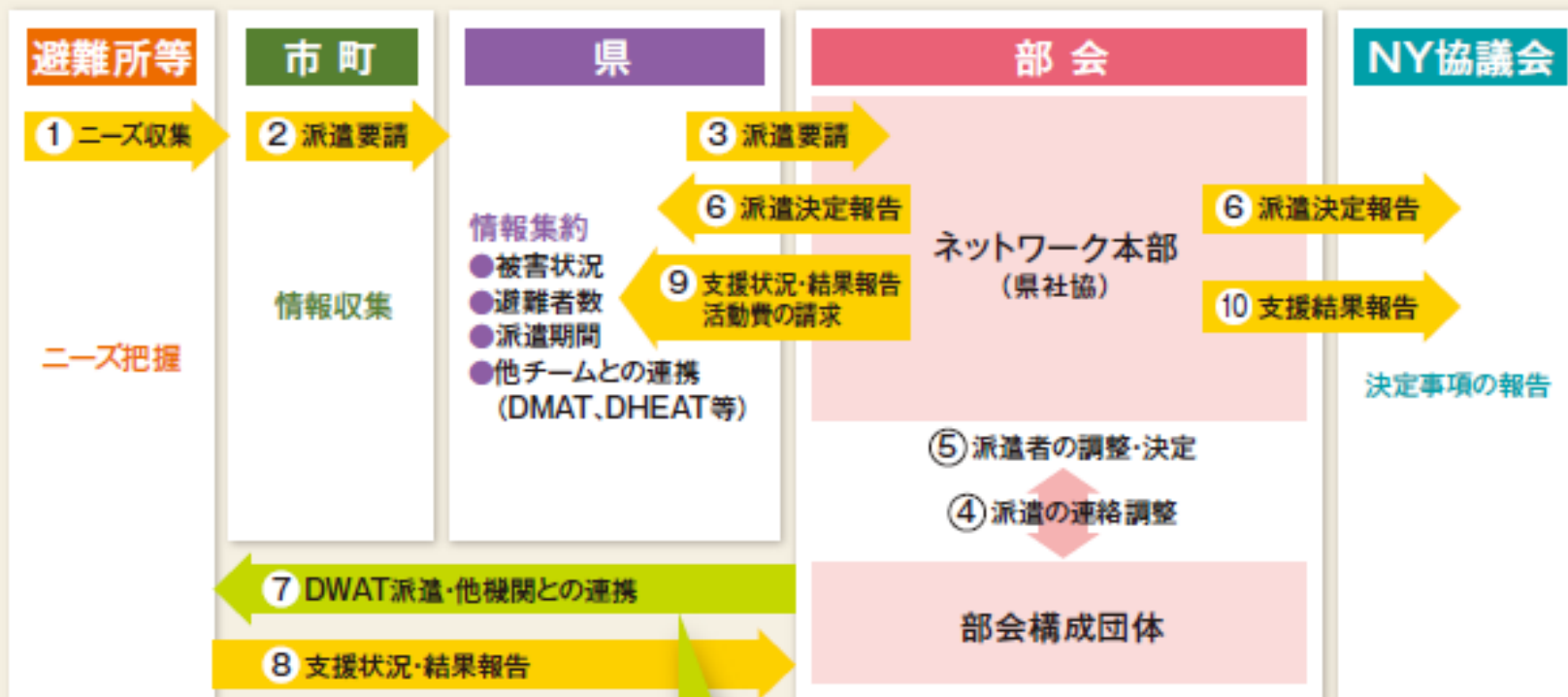
災害時

- 避難所環境の整備（段差をなくす、通路の確保など）
- 高齢者や障がい者など配慮を要する方への聞き取り（必要に応じて福祉避難所につなぐなど）
- 関係機関への受け入れ、相談などのコーディネート
- 配慮を要する方からの相談対応及び応急的な介護等の支援
- 市町、医療救護班、保健活動などと連携した要配慮者の支援 など



災害時の派遣の流れ

<県内発生時のチーム派遣の流れ>



香川DWAT先遣隊

- 発災後3日以内に派遣。
- 福祉支援の必要性を判断し、現地関係者と連携、調整します。



香川DWAT支援隊

- 発災後4日以降に派遣。
- 具体的な福祉支援をおこないます。



香川県災害福祉支援ネットワーク協議会
(事務局: 香川県社会福祉協議会 法人振興課)

〒760-0017 香川県高松市番町1-10-35 香川県社会福祉総合センター内

TEL.087-861-5611

FAX.087-861-2664

香川県社会福祉
より

時間経過

例) 局地災害: 当日, 3日間, 1ヶ月, 2年
 例) 広域災害: 1週間, 1ヶ月, 3ヶ月, 状況に応じて

災害発生

発災直後

1. 緊急期
 2. 応急期
 3-1. 復旧期, 3-2. 復旧期, 3-3. 復旧期
 4-1. 復興期, 4-2. 復興期

1. 緊急期
 2. 応急期
 3. 復旧期
 4. 復興期

避難行動支援 (安否確認・避難拠点に移動)
 避難生活導入支援
 避難生活・仮住まい継続支援 / 仮住まい導入支援 / 仮住まい生活支援
 定着支援
 再建支援

要配慮者の状態

避難行動 → 避難状態 → 仮住まい → 生活再建

避難行動直後から避難生活開始

災害派遣福祉チームの活動

二次被害の防止に注力
 災害派遣福祉チームの活動が想定される時期

外部支援の投入開始
 外部支援を持続的に投入
 外部支援は段階的に撤退・被災地の自立を妨げない

地域の実情に応じた自立

被災地の復旧状況をみて
 地域資源や中長期の
 支援活動に結び付けて撤退
 (自立を損なわない)

被災地外から応援に入り
 被災地の復旧・自立を
 支援
 = 互いに助け合う仕組み
 ゆえに都道府県単位、
 「ALL●●県」の体制を
 つくる必要がある

災害派遣福祉チームの「CSCASSS」(案)

DMAT		災害派遣福祉チーム	
C Command & Control ：指揮と連携	S Safety : 安全	C Command & Control ：指揮と連携	S Safety : 安全
C Communication : 情報伝達	A Assessment : 評価	C Communication : 情報伝達	A Assessment : 評価
T Triage : トリアージ	T Treatment : 治療	S Screening : スクリーニング	S Support : サポート
T Transport : 搬送		S Shift : シフト（地元）移行	

ロジスティクス

管理項目

支援項目

協働

香川県災害派遣福祉チームの活動

令和3年度活動訓練

- ◇令和3年12月14日
- ◇香川県立丸亀競技場
- ◇参加者：43名
- ◇内容
 - ・派遣の流れの確認
 - ・メンバーの心構え
 - ・災害用備品の使用訓練
 - ・訓練の振り返り
 - ・意見交換

香川DWATの登録状況（令和3年10月時点） 先遣隊19名 支援隊37名 計56名

	推薦団体名	先遣隊	支援隊
1	香川県老人福祉施設協議会	1	7
2	香川県老人保健施設協議会	2	3
3	香川県保育協議会	2	0
4	香川県児童福祉施設連合会	1	5
5	香川県知的障害者福祉協会	2	1
6	香川県救護・身障施設協議会	2	2
7	香川県県内社会福祉協議会連絡協議会	0	1
8	香川県社会福祉士会	2	4
9	香川県介護福祉士会	2	4
10	香川県介護支援専門員協議会	2	1
11	香川県医療ソーシャルワーカー協会	1	1
12	香川県社会福祉法人経営者協議会	2	8
	計	19	37

ワーキンググループ

◇広報・情報発信 28名

令和4年3月23日
ワーキング開催予定

◇研修・企画 29名

令和4年3月25日
ワーキング開催予定



香川県社会福祉協議会より

5. 机上避難所運営訓練(HUG)のコロナ応用編の取組み

共同研究者

香川大学 危機管理先端教育研究センター 2)

香川大学 医学部 公衆衛生学 3)

萩池昌信 2)、平尾智弘 3)

机上避難所運営訓練（HUG）のコロナ応用編の取組み

避難所運営ゲーム（HUG）は、静岡県が東海地震に備えて開発したゲーム

各地で防災に関連した知識や経験が更に蓄積され

- ① 要配慮者の対応
- ② 新型コロナウイルス感染症防止対策
- ③ ゾーニングの実施 など

避難所における“CSCA”を意識し
運営本部対応をカードとして加え
運営マニュアルに沿った活動を
想定した訓練を試みた

HUG（コロナ）6点セット

1. 避難所情報

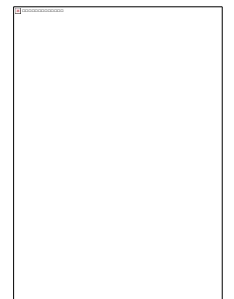
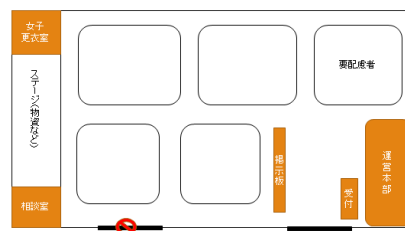
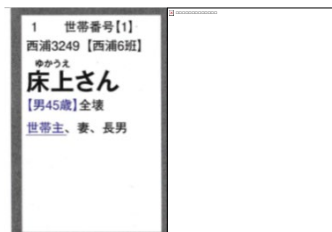
2. 避難者・イベントカード

3. 避難所レイアウト図

4. 避難所運営マニュアル

5. 避難所日報

6. 避難者名簿



避難者・イベントカード

HUGカード概要

区分	項目	内 容
避難者	地域住民	家族、単身
	要配慮者	高齢者、疾患、障がい、児童、外国人、妊産婦
イベント	環境	受付、ポスト、掲示板、着替え、談話室、洗濯場、作業場、ごみ等
	物資	毛布、仮設トイレ、ポータブルトイレ、TV、仮設シャワー、食器、給水タンク、トイレットペーパー、間仕切り、おむつ、仮設風呂等
	困難対応	食事、視察、トイレ、立ち入り禁止、福祉避難所、安否確認、ホームレス、停電、取材、調査 等
	バス旅行	日本人、外国人 

コロナ禍状態の追加

割愛

HUG(コロナ)一部紹介

41	世帯番号()
(班)	
個呂奈さん	
(女35歳)	
1週間前に抗原検査が陰性でしたが、3日前より発熱が続いています。	

先週、東京に旅行に行っていました。

1週間前に抗原検査が陰性でしたが、3日前より発熱が続いています。

会社の同僚が新型コロナウイルス感染の疑いがあります。

	イベント番号13
避難者の検温チェックで発熱者がいました。対応をお願いします。	

保健センターから派遣された保健師が避難者名簿と配置図の提供を求めています。

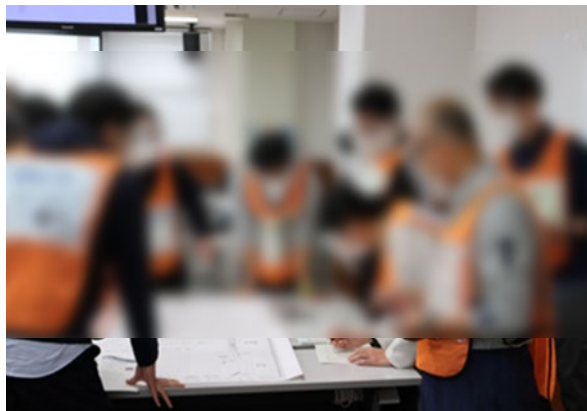
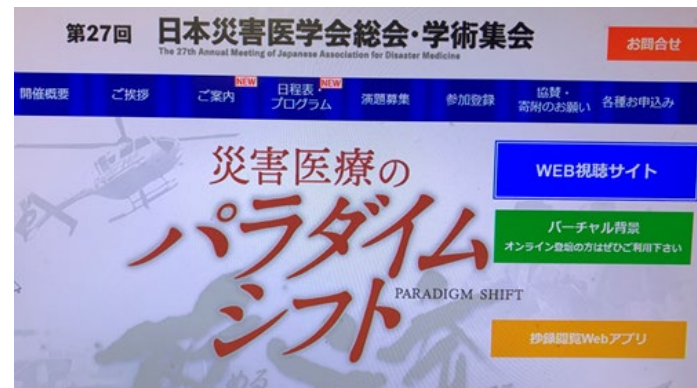
避難者から新型コロナウイルス感染症の陽性反応がありました。汚染区域の閉鎖と関係機関への報告をしてください。

通っている保育所で新型コロナウイルスのクラスターが発生し、濃厚接触しています。

机上避難所運営訓練(HUG)のコロナ応用編の取組み

①令和3年度四国防災・危機管理プログラム
防災実習にて1Gの実施／香川大学

②第27回日本災害医学会での発表
2022年3月3日／広島市



取組みのまとめ

発想・視点	事前準備
・ コロナ禍の対応に即したHUGが必要。 ・ 要配慮者への対応が求められている。 ・ <u>多重災害を想定したHUGを提案したい。</u> ・ 一般住民が参加し、啓発される事が大切。 ・ 役割分担をより意識した運営を目指したい。 ・ 現在版のHUGとして標準化する。	・ 既存の避難者・イベントカードの構成分析。 ・ 要配慮者、現場のコロナ禍の対応マニュアル等の整理。 ・ コロナ版の目的、参加者、資料の検討。 ・ <u>新避難者・イベントカードの検討・作成。</u> ・ <u>予測される効果の検討、模擬体験の実施。</u>
運 営	アウトプット
・ 1グループ、8名の参加者で実施した。 ・ 現在の災害時対応の標準資料を用意した。 ・ 避難所運営マニュアルの役割分担をした。 ・ 現状に合った避難者・イベントカードの追加を行った。 ・ 同日に既存版とコロナ版の体験を行った。 ・ <u>実施回数を重ね、ブラッシュアップが必要。</u>	・ 体験した方の全員から有用との評価だった。 ・ 感染症などに対し考えるキッカケになった。 ・ コロナ禍の現状に合った訓練となった。 ・ <u>リアルにイメージでき気づきが生まれた。</u> ・ <u>定期的に今回の訓練を実施して欲しい。</u> ・ <u>既存版と使い分けする事で相乗効果になる。</u>

四国防災・危機管理プログラム修了後の変化

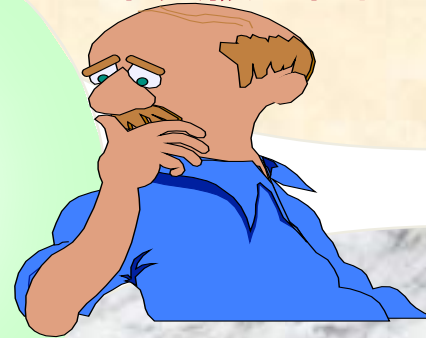
意識・認識・知識の向上

- ・災害・防災に必要な理念、知識及び専門家等の多様な価値観が修得できた。
- ・組織の危機管理における課題達成できる能力を習得した。
- ・専門的に統一した活動の理論、手法が説明できる。

災害支援力・防災力の向上

- ・それまでに培った経験や知識だけでなく、新たな災害支援や防災力の考え方や手法などを基に、人材育成、要配慮者の生活支援の総合的な実践が展開できる。

災害・危機対応
マネージャー



- ・より多くの関係者や専門職が繋がり、協働していく人的・情報網の基盤ができた。
- ・各分野の専門職の相乗効果を発揮させる「繋がり力」の推進役を果たしていくことができる。

人脈・ネットワークの強化

- ・自身の成長が自覚でき、「真のSW」として、目標達成への確信ができた。
- ・要配慮者主体の支援体制を構築する事で安心・信頼を満たし、社会的責任を果たすことの意義を明確化した。

自信・信頼性の向上